

令和2年6月12日

医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業
e-ASIA 共同研究プログラム
事後評価コメント

研究開発課題名	ミャンマーで流行している乳幼児～大人及び重症デングにおけるウイルス遺伝子の多様性解析
研究開発機関名	国立大学法人長崎大学
研究開発代表者名	モイ メンリン

ミャンマーのデング熱患者の検体の遺伝子解析とウイルス疫学調査を行い、デングウイルス3型ゲノタイプ1型が進化しながら流行を繰り返していることが明らかにされた。また不顕性患者検体を用いた本ウイルス感染増強・中和活性の測定結果より、重症化因子としてヒト中和抗体活性が重要であることを明らかにした。本研究開発成果は、今後、抗体医薬やワクチン開発に応用可能であり、さらなる医療分野への貢献が期待できる。また、ミャンマーの若手研究者や学生の研究参加が活発にされており、ミャンマーの科学技術の発展に貢献し、研究力を向上させた点は評価できる。

一方、米国による次世代シーケンサー解析はジカ熱に対するものであり、研究開発期間内にデング熱患者の末梢血解析のデータが得られなかった点は残念である。また、米国側とミャンマー側の研究者チーム間の連携は十分ではなかった。デング熱の疫学調査も含め、重症化メカニズムについて病原性に関与する因子の解明については、今後の継続的な研究が期待される。

以上